



しあわせ祈願の宮
本莊神社発行 第24号
〒500-8369
岐阜市敷島町9-24
honjojinja-gifu.gifu-city.net

春分の日・秋分の日とは 本莊神社宮司 今津隆弘

◎春分・秋分の日由来とは

日本には四季があり、四季はその折々に私たちの生活に潤いと恵みをもたらします。こうした自然風土は稲作を基盤とする農耕生活を育み、「稲」を主食とする生活様式、その生産生活の中で日本文化も形成されてきました。

そうした中で、とりわけ太陽を万物を育む根幹と位置づけ、「お天道さま(太陽神・日神)」と仰ぎ、人々はお日さまを中心に暮らし、朝日が昇ると朝日を拝み、日暮れには夕日に一日の無事を感謝して暮らしました。

そのお日さま(お天道さま)を祖霊それい、すなわち「祖先神そせんしん」と仰ぎ、生活を見守る秀麗な山を介してお参りしました。

春分・秋分の頃は、太陽が真東から出て、真西に沈み、秋分と共に昼と夜の長さがほぼ等しくなる季節の変わり目で、春分・秋分を中日とする前後三日間の計七日間を「お彼岸ひがえ」と云い、お彼岸にはお墓参りをする慣習があるのは、太陽が真西に沈むことから西方の極楽浄土につながる日とされ、「先祖をしのぶ期間」とされたからと云われています。

この春分・秋分の日はもともとお彼岸で先祖を供養する日でもあります。お彼岸には、「ご先祖様へ感謝の意味を込め、お墓参りや仏壇の掃除、また自分自身の行いを振り返り見つめ直すのが古くからのしきたりとされています。こうしたことから私たち日本人にとって、祖霊を敬う大切な日とされてきたのです。

困民の祝日としての春分の日、秋分の日由来は、明治四十一

年に制定された旧「皇室祭祀令」の規定、大祭の項に記される「春季皇霊祭」「秋季皇霊祭」に由来します。

皇霊祭とは皇霊殿で行われる大祭で、歴代の天皇・皇后・皇親の霊を祭る儀式として古来より重視されてきたため、祝日として制定されました。

現在も、春分の日に「春季皇霊祭」、秋分の日に「秋季皇霊祭」が宮中三殿で営まれます。

所功氏の『天皇の「まつりごと」象徴としての祭祀と公務』によれば、古代以来の春秋お彼岸会と関係が深く、その初見は平安初期の大同元年(八〇六)、二十年ほど前に皇太子の身分を廃された早良親王(崇道天皇と追贈)のために、桓武天皇の崩御(三月十七日)に際し、諸国の国分寺で「春秋二仲月(旧暦の二月と八月)別して七日、金剛般若経を讀ましむ」との記事(『日本書紀』)です。

しかし、『日本書紀』には、神武天皇の「皇祖天神を祭りたまふ」、天武天皇十年(六八二)五月十一日条に「皇祖の御魂を祭りたまふ」とあり、皇室には祖先祭祀の伝統が前提となつて「お彼岸会」が行われ受け継がれてきました。

明治維新の神仏分離により、従来の歴代霊牌は東山の泉涌寺せんとうじに遷され、あらためて神祇官で歴代天皇の御霊代を招き祭り、春秋二季(春分・秋分)の皇霊祭が、明治六年以来の国家的な「祭日」に加えられました。伊勢神宮を始め、各地の神社でも、皇霊祭遙拜式うられいさうはいしきが執り行われます。

宮中では、皇霊祭に続いて神殿祭も執り行われます。皇霊殿には、歴代天皇を始め、皇族方が祀られています。神殿には、日本国中の天神地祇が祀られています。

◎皇室祭祀令に規定された祭日と現在の国民の祝日

祭日とは、皇室の祭典や神社のお祭りなど、宗教儀礼を行う日のことです。

もともと「皇室祭祀令」という皇室の祭祀(宮中祭祀)に関する法令があり、ここで祭日は定められていました。しかし、昭和二十二年(一九四七)に廃止。

そのため、現在では祭日はなくなっています。ただ、名前を変えて、今の祝日に受け継がれているものもあります。

今日に受け継がれている祭日は、建国記念の日(紀元節)、春季皇霊祭(春分の日)、天皇誕生日、秋季皇霊祭(秋分の日)、明治節(文化の日)、勤労感謝の日(新嘗祭)などです。

◎春分・秋分と社日

中国由来の暦では、農業に従事する日本人の人々が季節の変化をつかめないため、それらを補うために独自に作られたのが、「雑節」です。

その雑節は季節の移ろいを表す目安です。年中行事や物忌みが伴います。これらの物忌みには季節の変わり目に大仕事をして、農作業に支障がないように、という戒めがあり、農業と密につながっているのです。

その雑節の中に、「社日」があり、春分・秋分に近い戌の日を云います。「社」は、土地の神・産土神のこと

で、この神さまに春は豊作を祈願し、秋は収穫を感謝します。一年に二回あり、春を春社、秋を秋社と云います。

春になると、「山の神」が里へ下って「田の神」となり、秋には収穫を見届けて山に帰るとされ、この神が祖霊であると考えられてきました。この社日のお祭りが、お彼岸と結びついたのがお彼岸会で、五穀の種を供えてお祭りし、或いは餅をついてお祝いしたとされました。これが「ぼた餅」の由来です。ぼた餅は、春には牡丹の花になぞらえて「ぼた餅」、秋には萩の花になぞらえて「おはぎ」と呼ばれます。「ぼた餅」と「おはぎ」は見た目も材料も同じですが、食べる時期により名前が変わるのです。

季節によって言い方が変わる、日本独特の風流な文化なのです。



パワースポット

本莊自治会第十支部
支部長 水端 彰

一月が終わる頃、新聞を見ていたところ、ある旅行会社が出した二見ヶ浦・伊勢神宮外宮内宮の三つのお宮をお参りする日帰りバスツアーの広告が目にとまりました。ここ数年は、コロナ、コロナで行きたいところも行けず自粛生活を強いられましたでしたが、少しずつコロナの感染者数も減少してきていることから、妻と相談してこのバスツアーに申し込むことにしました。さっそく旅行会社へバスツアーの申し込みを行ったところ、全国旅行割りや三重県旅クーポンの特典が付いて、お値打ち料金で申し込むことができました。そして旅行当日の朝、JR岐阜駅近くの駐車場でバスに乗車して出発しましたが、予想していたように、バスの中は私らと同じように年配の夫婦での参加者がほとんどでした。

いよいよにお伊勢参りの話題を沢山盛り込んで和やかなにガイドしていましたが、突然「ここで皆さんにクイズを出します。昔から信仰の山として崇められてきた富士山と加賀の白山、これからお参りに行くお伊勢さん、鳥根県にある出雲大社の四カ所を一度にお参りできるパワースポットがありますか？それはどこでしょうか？」とクイズを始めました。私を含めバスツアーに参加した皆さんからは「どこだろうね。」と話しつつ答えが出ませんでした。

するとガイドさんは、「そのパワースポットのあるところは岐阜県です。さて岐阜県のどこでしょうか?」...。それでも参加者からの答えはありません。するとガイドさんは、「そのパワースポットは岐阜市にあります!」と話されました。私は、「えっ? そんなパワースポットが岐阜市にあるのか?」と考えた末、「もしかしたら本莊神社のことですか?」と答えたところ、ガイドさんが「正解です。本莊神社にそのパワースポットがあります。富士山、白山、伊勢神宮、出雲大社が位置する四つの方位の北緯・東経が交わる要の位置に本莊神社が祀られています。この神社の本殿前に四つの方位へ一度にお参りできる『四方拝所』という鳥居があります。」と紹介されました。

令和四年度
氏子総代を担当して
中ノ町東 山本哲也

この日のバスツアーは天候にも恵まれ楽しい旅となりました。その昔、お伊勢参りは一生に一度お参りできるかどうか憧れの場所であったと聞きますが、今はこのように一日でお伊勢参りができる時代となりました。私は、このパワースポットのある神社の近くに住むことができ、平和で元気に過ごせることに感謝する旅となりました。

それから、月に一回から二回程度活動を行った。私も全く若いのだが、本莊神社保存会のメンバーの平均年齢が八十歳に迫る勢いであることを聞くと、「自分は若手なのかもしれない」と思うようになってきた。主な仕事としては、神社内の清掃や整備、お祭りなどの準備などが主な活動となる。

しかしながら準備が意外に重労働で役員だけでは大変で氏子の力は不可欠であった。準備もなかなか思うように進まない事もあったが、取りまとめ役のOさんは、大

きな心でみんなを導いているような感じであった。

神社に関わるようになって、自分なりに変わった事は、特に用や活動がない日でも週に一度はお参りをするようになった。毎週土曜日「一週間ありがとう」ございました。また、来週もお願いします」といっておみくじを引いている。

気の所為かもしれないが、神社に関わるようになって特に大きなトラブルに合わなくなった。つまり、比較的人生がうまく流れているような気がする。

あと、仕事以外の知合いが増えたことである。正直なところ、あまり活動自体が大変な印象はなかった。それ以上に楽しい活動であった。活動の反省会の中で、なかなか若い方が集まらない事を危惧する声もあるが、もつと神社の活動を発信していく事で、賛同してくれる方も増えるのではないだろうか？

中ノ町東自治会は、氏子総代を一年交代としているので、総代は次の方へバトンタッチするが自身は、引き続きできる範囲でお手

伝いを継続していきたいと考えている。

ベンチが奉納されました

責任役員 大矢芳明



今年二月に神社奉賛企業の社長さんを通じ、岐阜市大池町の巴産業株式会社さんが本莊神社に木製ベンチ二基を奉納させていただきましたとの申し出がございました。

早速、その社長さんと同行してもらい、巴産業株さんの資材置き場を訪問し、木製ベンチをみせてもらいました。

担当の中村岳史部長さんから、『当社は「長良川整備」事業を請け負っており、その際河川の樹木を伐採する。伐採した樹木の内、幹が太い樹木は、枝を掃った上、半分は切断し、ふたつのベンチを作っている。設置の際には、ベンチ下の両端に基礎を取り付け安定を図る』との説明をうけました。

表面にニス塗られ、風雨にも対応でき、三〜四人がかけられるベンチでした。

中村部長さんからは、『伐採した樹木から作ったベンチは、これまで地元の公園、学校に寄贈してきた。今般、本莊神社には、地元をはじめたくさんの方の参拝客があるとの話を伺い、是非奉納させていただきたい。』との申し出をいただきました。

改めて役員で話し合った結果、ISOの認証取得等、資源の有効利用を図るとともに、社会貢献意識の高い地元優良企業であり、なによりも参拝される皆さんの憩いの場となることから、喜んで奉納を受け入れることとしました。

三月四日(土)の月次祭の折、

一基は境内の樹木の下、もう一基は花壇、しあわせの庭の樹木の下に設置していただきました。

その際、宮司さんにより奉納奉告祭のお祓いを行い、神社から感謝状をお渡ししました。



参拝される地元の皆さんには、神社を散歩コースのひとつとして楽しめる方もいます。ご参拝の折には、境内の樹木の下の木陰で一服されるもよし、しあわせの庭で、芝桜、アジサイ他の草花を堪能されるもよし、ベンチに腰を下ろし、どうぞゆっくりおくつろぎ下さい。

市田先生への感謝文

巫女舞奉仕の皆さん

今年の春の例祭では、久方ぶりに「巫女舞」の奉納が出来ました。と同時に、崇敬者総代・いちだクリニツク院長 市田正成先生の都合が付き、例祭に参列して頂きました。市田先生には、神社巫女舞の立ち上げの平成二十年から、巫女舞装束を始め、何かとご支援していただいております。

今般、例祭終了後、拜殿にて「巫女舞奉仕の皆さん」とともに囲む会を開きました。先生からは「日頃の練習の成果が発揮された素晴らしい巫女舞を見させてください」とのお褒めの言葉と、「巫女舞に取り組むことは、自らの人生の貴重な体験になる」との激励をいただきました。

一方、巫女舞の皆さんは、巫女舞に取り組む意欲とともに、先生への感謝文を読み上げました。その感謝文を抜粋の上、掲載させていただきます。



令和5年度本莊神社「春の例祭」巫女舞 市田崇敬総代記念品贈呈 記念写真
日時：令和5年4月5日(水) 場所：本莊神社御拝殿

市田先生へ
山川桃佳

春風のさわやかな季節を迎え、春の例祭で巫女舞の奉納をさせて頂けることを嬉しく思います。
私は小学四年生から始め、様々な経験をさせて頂きました。
当時はただやってみようという気持ちで始めましたが、毎週の稽古が楽しく、皆で成功できた時の達成感がやがやがでもありました。これまで長い間、続けてこられたのは市田先生を始め、地域の方々の支えて頂いたこと、佐藤先生の

優しい指導のもとで、稽古を重ねてこられたことだと思っています。伝統文化を受け継ぎ、舞を奉納させて頂ける場、それに向けて練習させて頂ける時間を設けて頂けること、心より感謝申し上げます。巫女舞を他学年の子達と稽古していく中で、教えてもらったことを教える立場となり、とても新鮮です。



皆で稽古し、教えて頂いたことを一人一人が發揮し、お祭りを成功させ、神様や人々への感謝の気持ちを培っていきたくです。
一生懸命、稽古して、本莊神社の伝統あるお祭りがますます栄えていくよう頑張っていきます。

本日は、ありがとうございました。

市田先生へ
佐藤 心美

毎年、私達の巫女舞を見守って下さり、ありがとうございます。私は、母が先生として教えている姿を見て、小さい頃からやってみたく思っていて、三年生の時に始めました。



初めは、巫女舞を舞うのは難しく綺麗に舞っているお姉さんを見て、中学生になったら皆のお手本になれるように頑張りたいと思います。

楽しく巫女舞を続けていきたいです。そして、皆さんへの感謝を忘れず、練習していきたいと思えます。

巫女舞をつとめて
高坂 緋奈

私は、小学校四年生の時に、巫女舞を始めて、今年で六年目になりました。最初はただ興味があつて始めただけだったのに、まさかここまで続けられるとは思いませんでした。

四廊や五廊だったのが、今では一廊になり、みんなのお手本として、舞うことも多くなりました。今年、コロナが落ち着いてきて、できる行事も増えてきたので、今後は巫女舞を続けられるように、これからも練習に励み、良い舞が舞えるようにがんばりたいです。

六年目の巫女舞
高崎 遙

私は今年で六年目になります。一年生の頃は、初めてのことがた

くさんあり、練習だけではなく本番でも数え切れないほど失敗していたと思います。けれど、今では先生方のおかげで失敗せず、それをもっと高めていけるようになりました。

そして、今回の巫女舞では、一回だけ練習を休んだ時もあったけど、失敗せずにやり切ることができました。とってもうれしかったです。

私には、直すべき短所もあるけど、それを踏まえ頑張れる長所もあります。なので、今はまだ、大学生や高校生などのお姉さんたちから教えてもらうことが多いけれど、いつかは、自分が年下の子たちを教えてあげられる立場になれるように、もつともつと頑張りたいです。そして、本莊神社の伝統を絶やさないためにも巫女舞を続けていきたいです。

春の例祭
山川 珠歩

今年の例祭はとても良い天気の中、行いう事ができました。

練習では何度も通し、足の動きや細かい動きを意識して取り組むことができました。そして、それを本番で発揮することができました。

私は小学二年生から始めていますが、年々下級生の子が増え、教える立場にもなりました。

練習の時に少し違っていた所や足の動きなどが本番では正しく舞えていて私まで嬉しく思いました。みんなで何度も練習を重ね、無事奉納できた事、嬉しく思います。このように毎年行える事は、地域の方々の支えのおかげだと思います。

これからも一回一回の練習を大切にみんなで成功できるように頑張っていきたいです。

春の例祭

山川 桃佳

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、春の例祭で巫女舞の奉納をさせて頂けたこと嬉しく思います。小学四年生の時に初めて何度もお祭りを経験させていただ

ていますが、味わう緊張感も新鮮です。何度練習を重ねてきてもあの場に立つと緊張しますが、先生の優しい指導の下で様々な年代の子たちと稽古を重ねることで自信を持って舞うことができています。

皆で稽古して教えて頂いたことを一人一人が発揮して、伝統ある本莊神社のお祭りを成功させることができて良かったです。

このように練習して、奉納させていただけなのは地域の方々の協力があるからこそだと思います。地域の方々への感謝を忘れずに、一回一回の稽古を大切に一生懸命に取り組み、本莊神社の伝統あるお祭りがますます栄えていくように頑張っていきたいと思います。

まちがえなくて、よかった

はまじま しほ

わたしは、前の巫女舞で三回ぐらいまちがえてしまいました。だけど、こんかいの巫女舞では、なにも、まちがえることは、ありませんでした。そのわけは、がんばって練習をして、まちがえても、という

えの人たちに、「こうするといよいよ」と言われたりして、できるようにになりました。

また、巫女舞をするときは、全部忘れてしまっているかもしれないけど、毎しゅう土曜日にがんばって練習して、本番はまちがえないようにしたいです。



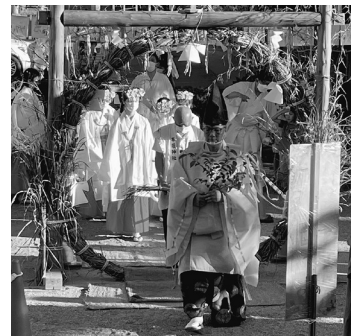
夏祭りのこと

口今思案中

恒例の「夏越祭」、「夏祭り」は、本年七月一日(土)に開催予定です。

「夏越祭」では、例年通り「茅の輪くぐり」とともに「巫女舞」奉納を

予定しています。



「夏祭り」では、例年の通り、地元の児童の描いた絵を行灯に貼り付け、ライトアップし、境内に展示します。また、昨年実施した「親子・花火作り教室」に替わり、「巫女舞教室」、「親子でのモノ作り教室」開催の予定を検討しています。

また、例年お手伝いに来られる若手神職の皆さんによる小学生を対象とした「御札たて」組み立て教室も行われます。

さらに、「夏越祭」終了後、境内での催しも、開催を前提に「雨乞い踊り」、「合唱」、「うずら太鼓」などを検討しています。

みたらし団子、たこ焼き、かき氷などの食べ物コーナーは、現在検討中です。

夏祭りにつきましては、皆様方のご意見、ご提案がありましたら、是非ご一報願います。

※金の御朱印

授与口今思案中

毎月、月末金曜日に、金神社を始め、県内二十六ヶ所の神社仏閣で「金の御朱印」を授与しております。当社でも令和四年四月から金の御朱印を授与しております。

当社では、基本的に毎月第一土曜日の月次祭と、月末金曜日の二回授与しておりますので、ご希望される方はお札所受付にてお受け下さい。

○受付時間

・第一土曜日

午前十時～午後三時まで

・最終金曜日のみ

午前九時～午後五時まで

【金の御朱印】二種類あります。

○御朱印料 各五〇〇円

金の御朱印は「書き置き」と記帳への「直書き」があります。

◆御朱印帳授与

一冊 二一、〇〇〇円
(御朱印 一種類記帳済み)



月次祭祈願
桐箱入り特別御守授与



月次祭祈願・桐箱入り「結縁守」

毎月の月次祭で、特別祈願した桐箱入り「御守」です。

【授与日】

毎月第一土曜日及び、月末金曜日に授与致しております。
一体 金一、〇〇〇円也

○特別限定御守授与日

一月三が日	正月授与
一月七日	月次祭
一月二十七日	金の御朱印
二月四日	月次祭
二月二十四日	金の御朱印
三月四日	月次祭
三月三十一日	金の御朱印
四月一日	月次祭
四月二十八日	金の御朱印
五月六日	月次祭
五月二十六日	金の御朱印
六月三日	月次祭
六月三十日	金の御朱印
七月一日	月次祭
七月二十八日	金の御朱印
八月五日	月次祭
八月二十五日	金の御朱印
九月二日	月次祭
九月二十九日	金の御朱印
十月七日	月次祭
十月二十七日	金の御朱印

十一月四日	月次祭
十一月二十四日	金の御朱印
十二月二日	月次祭
十二月二十九日	金の御朱印

例祭(春の大祭)

アルバム



しあわせの庭の芝桜



拝殿の供えられた鱗餅



○拝殿のお供え(神饌)



○巫女舞の奉納



○祭典後の集合写真



令和5年度本莊神社「春の例祭」記念写真
日時:令和5年4月5日(水) 場所:本莊神社境内

○三年ぶりの直会

